

平成30年6月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 田 中 勉

そ う せ い 宇 佐 見 康 人

公 明 党 石 塚 秀 博

フロンティア秋田 伊 藤 巧 一

社会・市民連合 藤 枝 隆 博

共 産 党 佐 藤 純 子

秋 水 会 佐 藤 宏 悦

秋 水 会 伊 藤 一 榮

秋 水 会 渡 辺 正 宏

1 秋田市中・長期財政見通し等について

- (1) 同見通しにある「歳入歳出の推移の見通し」の記載は、この6年間一字一句同じであるが、このような見通しで本市の財政運営は本当に大丈夫なのか
- (2) 今後10年間、事業所税を除く市税については、ほとんど減らないと見込んでいるが、生産年齢人口が減り続ける中、どのような方法で市税収入を維持していくのか
- (3) 今後20年間で市有建築物の約9割が築後30年を経過するという状況において、公共施設等整備基金の積み立てについてどのように考えているのか、また、同基金を全額取り崩した後、市有建築物をどのように更新していくのか

2 今後の水道事業の運営について

- (1) 仁井田浄水場の更新のスケジュール及び現段階での検討状況はどうか
- (2) 水道管路の更新については多額の費用が見込まれるため、将来にわたって水道事業を継続するためには、アセットマネジメントの導入など長期的視野に立った計画が大切と考えるが、基本的な考え方についてはどうか
- (3) 水道事業において、包括的民間委託など事業運営の効率化に取り組んでいるが、今後、経営環境が厳しくなる中、具体的にどのような効率化を考えているのか

3 秋田市卸売市場について

- (1) 同市場において取り扱う品目の品質や安全性の確保、流通環境の変化に対応していくために、できるだけ早い時期に施設の建てかえまたは移転が必要と考えるが、今後の目指すべき姿と方向性及び時期をどのように考えているのか

(2) 現在の敷地内にコンパクトで適正な規模の同市場施設を建て、余剰地の有効活用として、にぎわいやまちづくり、観光の観点より、例えば、秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想の一部を展開することは考えられないのか

4 市役所の情報セキュリティーについて

(1) 総務省の地方公共団体における情報セキュリティーポリシーに関するガイドラインでは、情報セキュリティーに関する研修・訓練は定期的実施することが推奨されているが、本市職員等の情報セキュリティーに関する研修等の実施状況はどうか

(2) 同ガイドラインによると、ネットワーク及び情報システム等の情報資産における情報セキュリティー対策状況については、毎年度及び必要に応じた監査が必要となっているが、本市における実施状況はどうか、また、これまでの指摘事項とその対応についてはどうか

5 待機児童対策について

(1) 平成29年度の教育・保育施設等の包括外部監査において、利用希望者側のニーズに合った地区別定員数の見直しを進めるために、同施設等の受け入れについて再配置が必要との意見があったが、再配置したのか

(2) 保育士人材バンクに登録することによる優位性が感じられないが、設立の目的は何か、また、昨年度の登録者数と実際に就労につながった人数はどうか

6 介護保険と高齢者施策について

(1) 介護保険事業財政調整基金に積み立てができるくらい介護保険料に余裕があれば、広域型特別養護老人ホームの新設が可能と考えるが、平成27年度から平成29年度までの3年間に、同ホームを1施設も新設しなかった理由は何か

(2) 第9次秋田市高齢者プランにおいて、広域型特別養護老人ホーム1

施設と地域密着型介護老人福祉施設1施設の新設が計画されているものの、入所待機者等の状況からして明らかに不足していると思われるが、計画の設定根拠は何か

- (3) 今後、間違いなく介護保険料が上昇し続けていくことが予測される中、今年度、介護保険料を上げなかった理由は何か
- (4) 介護保険事業財政調整基金を取り崩すことができる理由として、同基金条例のいずれに当たるのか
- (5) 介護職員の確保策の一つとして、今年度も介護ロボット導入促進事業が計画されているが、今後とも積極的に展開していく考えはないか

7 障がい者福祉について

- (1) 療育手帳Bを所持している65歳以上の障がい者についても、障がい児・者福祉医療制度の対象にすることを検討課題としていたが、どのような検討をしたのか、また、結果はどうか
- (2) 国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律に基づき、その後、どのような検討をしたのか、また、社会福祉法人から物品等の入札参加申請の受け付け実績はあるのか
- (3) 障がい者のグループホームをふやすために、本市としてどのような施策を考えているのか

8 立地適正化計画について

- (1) 同計画においては、医療・福祉・商業・子育て支援施設等を都市機能誘導区域へ誘導促進するとあるが、地価が高く、しかもまとまった土地が少ない区域に、具体的にどのような施策で誘導を考えているのか
- (2) 同計画が策定されたことで、市街化調整区域にある老朽化した特別養護老人ホームの建てかえに対してどのような影響があるのか
- (3) 今後、本市が円滑に移動可能な公共交通網を実現し、維持していく地域社会を目指すのであれば、市民、交通事業者及び行政それぞれの役割や責務を明確にした条例を制定するべきと考えるがどうか

9 豪雨災害対策について

- (1) 毎年同じ地域が被害を受けることがわかっていながら対応ができていないことから、対策を抜本的に見直す必要があると思うがどうか

10 イーjis・アショアの配備について

- (1) 防衛省は市民からの理解を得るため、説明に当たっては本市に相談すると言っているが、本市としてどのような対応をするのか

1 子供の人権について

- (1) 本市で把握している児童虐待問題に対して今後どう向き合っていくのか、また、根絶に向けた取り組みをどのように行っていくのか
- (2) 児童虐待による最悪の事態を防ぐため、本市も積極的に介入すべきと思うがどうか
- (3) 里親制度の普及にこれまで以上に取り組むべきと考えるがどうか

2 子供の貧困対策等について

- (1) 自己肯定感の低い子供に対する市長の認識はどうか、また、東京都の「子供の生活実態調査」では、子供の自己肯定感について調査し、生活困難度が高いほど自己肯定感が低いという結果が出ているが、本市でも同様の調査を実施し、実態の把握に努めるべきと考えるがどうか
- (2) 秋田市子どもの未来応援計画の中で、自己肯定感の向上に向けた取り組みを進めていくべきと考えるがどうか
- (3) 子どもの貧困対策庁内連絡会が設置されているが、貧困対策に係るプロジェクトチームを立ち上げ、全庁的に取り組んでいくべきと考えるがどうか

3 環境施策について

- (1) 1リットル1円の家庭ごみ処理手数料で、1人1日当たりの排出量480グラムを目指すとしているが、目標値に届いていない現状をどうとらえているのか
- (2) ごみ減量をさらに進めていく上で必要なことは何か、また、ごみ減量を推進するため、廃棄物減量等推進員を配置し、活用すべきと考えるがどうか
- (3) 家庭ごみの減量を進めるとともに、事業者にもごみを出さない取り組みを積極的に促すべきと考えるがどうか

(4) 家庭ごみ処理手数料相当額の用途について拡大するとともに、一般廃棄物処理施設整備基金積立金の積立額の割合についても、歳入の状況に合わせて柔軟に対応できるよう検討すべきと考えるがどうか

(5) 秋田市総合環境センター施設整備計画を作成し、市民に早く公表すべきと考えるがどうか

4 今後の防災、減災のあり方について

(1) 昨年の豪雨災害での教訓を、今回の豪雨災害時に生かすことはできたのか、また、今回の豪雨災害に対する反省点はあったのか

(2) 大規模災害時には市職員も被災者となる可能性があることから、行政に頼らない防災、減災意識の向上につながる取り組みが必要と考えるがどうか

5 イージス・アショアの配備について

(1) イージス・アショアの配備に対する市長の見解はどうか

(2) イージス・アショアが本市に配備された場合のメリットとデメリットについて、市長はどう考えているのか

(3) 防衛大臣は「地元の理解を得る」としているが、市長が考える地元理解とは何か

(4) 市民から広く意見を聞く機会を市として設けるべきと考えるがどうか

(5) 全員協議会の中で、防衛省は住民説明会の開催について「今後市と相談して決めていく」と発言していたが、本市は同省とどのようにかわっていくのか

6 大森山動物園のさらなる魅力向上について

(1) 全国の他の動物園と比較した場合、同園のセールスポイントは何か

(2) 同園の飼育員が有する高度な飼育の知識を、動物愛好家向けに紹介するための研修会を開催するなど、新たな客層を取り込む検討をしてみてもどうか

1 平成30年5月の大雨災害への対応について

(1) 農業被害等の復旧支援について

ア 本市の農業被害の実態と現在までの災害復旧の状況及び今後の復旧のめどはどうか

イ 被災農業者の経営維持を図るため、どのような支援を行っていくのか

ウ 市長の早期復旧にかける決意はどうか

(2) 緊急告知ラジオの活用等について

ア 今回の災害における緊急告知ラジオの活用状況及びその効果はどうか

イ 自力で避難できない高齢者が増加傾向にある中、今後の災害対応に向け、見直すべき点、改善すべき課題等があったのか

ウ 今後の緊急告知ラジオの取り組み拡大について、どのように考えているのか

(3) 古川排水樋門閉鎖時における強制排水設備の整備等について

ア 平成29年9月定例会での排水機場整備に関する一般質問の答弁を踏まえ、国、県並びに本市の協議はどのように進められてきたのか

イ 南部地域の多くの住民が、大雨が降るたびに日常の生活を脅かされ、不安な日々を過ごさなければならない現実を、どのようにとらえているのか

ウ 大雨により雄物川の水位が上昇した際、堤防の決壊による外水はらんがなくとも、南部地域の広い範囲で内水はらんを引き起こしてしまう現状の治水対策の欠陥に対し、行政の責任として抜本的な対策の必要性を考えていないのか

エ 国及び県に働きかけ、南部地域の総合的な治水対策について具体的に協議する場の設置に向けて、早期に動き出すべきと考えるがどうか

2 市立秋田総合病院の改築について

(1) 改築事業について、今後の議会への説明等のあり方をどのように考えているのか

(2) 「すべては患者さんの笑顔のために」との理念が、基本設計の中で具体的にどのように表現されているのか、また、良質で安全な医療を提供するための独創的な工夫は何か、さらに、配置計画において特に配慮した事柄は何か

(3) 解体工事の際のアスベスト対策等について

ア アスベストは、現病院施設内の主にどの部分にどれほどの量が残存していると推計しているのか

イ 解体工事は新病院の開院後に行うとされているが、市民、特に入院患者や病院職員等並びに病院周辺の住民など、関係するすべての方々の不安を少しでも取り除くために、アスベスト飛散防止の実施計画やその対策を、いつ、どのような手段で周知するのか

ウ 解体作業中の日々の飛散防止対策の効果のチェックとその情報提供及び最もアスベスト濃度の高い環境で作業する作業員の健康管理について、どのように考えているのか

エ アスベスト飛散防止対策と撤去・処分について、どれほどの予算を考えているのか、また、その根拠は何か

オ 解体・外構工事の工期に変更などの影響はないのか

3 教育委員会が所管する各施設の照明機器のLED化について

(1) かつて本市が活用したESCO事業と同様の手法により、教育委員会が所管する各施設の照明機器の一斉LED化を図る考えはないか

4 イーリス・アショアの配備について

(1) このたびの防衛大臣政務官との面会は、配備を本格化させるため陸上自衛隊新屋演習場を最適候補地に位置づけ、秋田県と本市に調査方針を伝えることが主目的であって、説明ではなかったのではないかと考えてならないが、市長は、イーリス・アショアの配備に関する、こ

れまでの防衛省の秋田に対する姿勢及び今回の防衛大臣政務官との面会に臨み、どのように感じているのか

(2) 地域住民や議会の理解を得るための説明会の形態、規模、対象及び時期などについて、どうあるべきと考えているのか

(3) 住民の不安が解消され、理解が得られたと判断するには何をもってそのよりどころとすべきと考えているのか

(4) 防衛省からの丁寧な説明があったとして、市民や議会の中にさまざまな意見があり、結果的に意見の集約が見られなかった場合、配備の是非について判断を求められるとすれば、そのよりどころをどうするのか

1 豪雨災害への対応について

- (1) 昨年7月及び8月並びにことし5月の豪雨時に各地区に避難勧告が発令されたが、避難施設の開設はどのように決定されたのか
- (2) 昨年の豪雨時において、自主防災組織はどのような活動を行ったのか
- (3) 災害時における避難の判断と誘導は、だれがどのように行うのか
- (4) 災害時に、地域の消防団と自主防災組織が連携を図ることができるよう、市として指導を強化するべきと考えるがどうか

2 ふたりの出会い応援事業「シングلزカフェ秋田」について

- (1) 「シングلزカフェ秋田」という名称は、市民にとってわかりづらいと思うがどうか
- (2) 参加者が固定化しているようであるが、この実情をどうとらえているのか
- (3) これまでの成果をどのように検証しているのか、また、今後、事業の継続を含め、独身者の結婚の希望をかなえるための施策をどのように進めていくのか

3 竿燈によるおもてなしについて

- (1) 秋田工業高等専門学校(秋工)の助教と学生が開発を進めている、竿燈まつりに参加する町内会の練習風景の見学や、竿燈体験を申し込めるスマートフォン用アプリケーションについて、将来的に市として活用する考えはないか
- (2) 秋田市民俗芸能伝承館(ねぶり流し館)に訪れた観光客に対して、満足度調査を行っているのか、また、利用者の声を施設の充実につなげているのか

4 合葬墓の募集のあり方及び整備について

- (1) 使用者の募集に際し、当初の計画ではどのくらいの応募があると思込んでいたのか
- (2) 2回目の募集も早期に申し込みを締め切ったが、申し込みができなかった希望者から不満の声はなかったのか
- (3) 申し込みを先着順としたことについて、どのように考えているのか
- (4) 今後、北部墓地、河辺墓地にも追加整備することを検討してはどうか

5 児童生徒の安全確保について

- (1) 児童生徒からの不審者情報をどのように収集し、保護者等に対してどのように情報発信しているのか
- (2) 児童生徒の通学路、またはその付近における危険箇所を把握しているのか、また、その対策をどのように考えているのか
- (3) 児童生徒の登下校時の見守り活動を行っている地域ボランティアの減少・高齢化の実態をどうとらえているのか、また、ボランティアの担い手不足への対応策は考えているのか

6 小・中学校の適正配置について

- (1) これまでの検討を踏まえ、今後、どのように適正配置を進めていくのか
- (2) 適正配置を検討する中、児童生徒数の増加が見込まれる学校について、どのように対応していくのか

7 中学校の部活動について

- (1) ことし3月にスポーツ庁が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、今後、本市としてどのように対応していくのか
- (2) 部活動指導員について、本市の制度導入に向けた検討状況はどうか

8 受動喫煙の防止について

- (1) 本市では、受動喫煙による健康被害などの調査は行っているのか
- (2) 今後、本庁舎等の受動喫煙対策をどのように進めていくのか

9 廃校となった雄和地域旧4小学校の利活用について

- (1) 当該建物は、現在、どのように利活用されているのか
- (2) 地域活性化事業を行う者を募集した際に、応募者に対して利活用するに当たっての詳細な説明は行われていたのか
- (3) 各グラウンドの管理は、現在、どのように行われているのか
- (4) 当該建物及びグラウンドの管理も含めた今後の利活用方針について、どのように考えているのか

1 イージス・アショアの配備について

- (1) 秋田県知事及び秋田市長は、6月1日の防衛省による説明を踏まえ、質問事項を取りまとめ、後日文書で申し入れすることになっているようだが、それはいつ行うのか、また、防衛省から文書の回答があった場合、その内容を市民に公開する考えはあるのか
- (2) 住民の不安を払拭することを目的に、住民理解が得られるまで説明会の開催を防衛省に申し入れする考えはあるか、また、申し入れする場合、参加対象者は限定すべきではないと考えるがどうか
- (3) 防衛省が住民の理解と協力が得られないまま、夏以降に調査を実施しようとした場合、市の対応はどうか
- (4) 市として、どのような基準に基づきイージス・アショアの配備の是非について判断するのか
- (5) イージス・アショアの配備に関して、隣接する住宅地、道路、学校施設、介護施設及びスポーツ施設などの立ち退き、利用制限などが伴う場合の市の対応はどうか
- (6) 電磁波による航空機、ドクターヘリなどへの飛行制限が伴う場合、市はそれを容認するのか
- (7) 電磁波による健康被害が特に心配されることから、科学的、医学的見地に基づく専門的かつ学術的な助言、指導を得るため、電磁波の研究者や医師などを構成メンバーとする本市独自の専門委員会を設置する考えはないか
- (8) 特に電磁波による健康被害が心配される幼児、小学生及び中学生を対象に、疫学調査を国の予算で実施するよう働きかける考えはないか

2 地域及び学校の防災対策について

- (1) 学校側の事前防災対策の不備を認めた石巻市立大川小学校に係る控訴審判決に対する本市の見解はどうか
- (2) 同判決を受けて、これまでの防災カルテの見直し、検討を行う必要

性はないか、また、津波発生時に備え、行動手順などを盛り込んだ秋田市津波避難計画策定の進捗状況はどうか

- (3) 本市において大規模地震に伴う津波被害が予想される小中学校は何校か、また、各校における独自の防災マニュアルの作成状況及び避難訓練の取り組み状況はどうか
- (4) 東日本大震災の記憶と教訓を忘れないために、小中学校の修学旅行先として被災地への見学や語り部体験を取り入れる考えはないか

3 治水対策等について

- (1) より多くの映像情報に基づき避難勧告や避難命令の判断が行えるよう、太平川、旭川、猿田川、古川、新城川などにライブカメラを設置する考えはないか
- (2) 堆積した土砂やその上に自生した樹木により増水や流量低下を招いている河川に対して、しゅんせつ工事を行う考えはないか
- (3) 住宅地に隣接した河川に対し、危機管理型水位計及び排水能力の高いポンプ場の設置を検討する考えはないか
- (4) 住宅地の家屋への床上浸水や道路冠水を防ぐため、貯水池を新設する考えはないか
- (5) 気象庁創設の J E T T（気象庁防災対応支援チーム）との連携を図ると同時に、同庁と連携し、平時からの研修、訓練の充実、地域ごとの災害特性を踏まえた防災体制の整備などにおいて、防災気象情報の適切な利活用を図るべきではないか

4 合葬墓について

- (1) 市営墓地に合葬墓を増設するに当たり、市民ニーズをどのように把握し、整備に反映するのか、また、今後の公募や選考方法についてどのように考えているのか
- (2) 合葬墓に加え、遺骨のみを収蔵する納骨堂を設置する考えはないか、また、樹木葬など葬儀に対して多様化するニーズをどのようにとらえているのか

5 成年後見制度の普及について

- (1) 成年後見制度利用促進法に定められている、成年後見制度促進の中核となる機関の設立に向けた進捗状況はどうか
- (2) 成年後見制度の周知と利用促進を図るため、市民相談センターの相談窓口福祉及び法律の専門相談員を配置する日をふやす考えはないか
- (3) 成年後見制度の利用促進を図るため、司法団体等との連携を図りながら、本庁舎や市内の医療機関などで成年後見制度の説明相談会などを定期的を開催する考えはないか

6 認知症初期集中支援チーム等について

- (1) 同チームが発足して8カ月が経過したが、認知症と疑われる市民への支援の現状と成果をどう総括しているのか
- (2) 同チームと地域包括支援センターとの連携における課題は何か
- (3) 今後の高齢者の増加を見据え、チーム数をふやすべきではないか
- (4) 認知症サポーターキャラバン事業の現状について、どのように認識しているのか、また、一層の充実を図るため、今後どのような取り組みを行うのか

7 受動喫煙対策について

- (1) 受動喫煙対策に関する本市の認識はどうか
- (2) 本市が管理するすべての施設の敷地内を全面禁煙とし、喫煙所を廃止する考えはないか
- (3) 東京都は罰則付きの受動喫煙防止条例の制定を目指しているが、本市でも実効性ある受動喫煙対策の確立につながる条例を制定する考えはないか

8 観光資源としての秋田犬の活用について

- (1) 新たな観光資源である秋田犬ステーション及び秋田犬サテライトス

テーションの現時点における評価はどうか、また、千秋公園に設置された秋田犬ふれあい処にどう生かしたのか

(2) 展示方法については、秋田犬の生態を理解した上で、過度なストレスを与えないための工夫をしているのか

(3) 万が一、展示会場で事故が発生した場合の責任の所在について、運営側との協議はなされているのか

1 市長の政治姿勢について

(1) イージス・アショアの配備について

ア イージス・アショアの配備よりも、平和的な外交を進めるよう国に働きかけるべきではないか

イ 市民の反対があった場合、市長は国に対して配備をするなど言うべきではないか

ウ 防衛省の調査の進捗にかかわらず、国に対し、イージス・アショアの配備をしないよう申し入れる考えはないか

2 豪雨災害について

(1) 豪雨による浸水や土砂災害が発生する中、市長が私用で秋田市を不在にしたことは危機管理意識が欠けているのではないか

(2) 災害のたびに繰り返し被害を受けている地域の原因を明らかにし、解決に向けた対策を講じるべきではないか

(3) 各市民サービスセンターで、災害時を想定した避難訓練と学習会などを実施してはどうか

(4) 市管理の河川のしゅんせつを実施するべきではないか、また、県管理の河川については、県に対し維持管理を徹底するよう求める考えはないか

(5) 国・県に対し、河川管理への助成などを求める考えはないか

3 農業について

(1) 米政策について

ア 今後の米の生産と消費についてどう考えているのか

イ 「あきたこまち」を市のブランド米として力を入れ、さらに消費拡大するための施策を強力に打ち出すべきではないか

ウ 米の消費拡大のため、米こうじや米粉を使用した特産品をつくる施策を展開してはどうか

(2) 6次産業化について

ア 農産物の直売所を増設する考えはないか、また、農産物の加工所を設置すべきと考えるがどうか

(3) 主要農作物種子法について

ア 同法の廃止による本市への影響をどう受けとめているのか

イ 外資系多国籍企業による食糧主権の侵害が起こる懸念について、どう考えるのか

ウ 主要農作物の品種改良と良質で安価な種子の供給を保障するため新たな仕組みを国に求めるべきと考えるがどうか、また、同時に県に対し、同趣旨の条例を制定するよう求める考えはないか

4 子供の貧困対策について

(1) 就学援助について

ア 支給費目を拡大すべきではないか

イ 世帯収入の審査基準を引き上げ、支給対象を拡大すべきではないか

(2) 高校生にも、就学援助と同等の支援を、市独自に実施すべきではないか

(3) 小中学校の給食費の無料化を実施すべきではないか

5 合葬墓について

(1) 今回の申し込み、受け付けの課題をどう解消しようとしているのか

(2) 市民ニーズに見合った整備計画をどう進めるのか、また、整備計画の情報を市民に早期に示すべきではないか

6 健康寿命日本一に向けた取り組みについて

(1) 取り組みとしての位置づけが弱いのではないか

(2) 各市民サービスセンターに気軽に集える場所の提供と、健康器具を設置してはどうか、また、一つ森公園内の運動設備を充実させ、気軽に健康増進ができる環境整備を進めるべきではないか

- (3) 健康ポイントカードを発行し、健康意識を高めてはどうか
- (4) 減塩を意識した食生活ができるよう、講座や調理教室などを定期的に開催してはどうか
- (5) 健康増進のため米こうじを普及促進する考えはないか

7 高齢者軽度生活援助事業について

- (1) 同事業の廃止で困っている市民に今後どのような対策をとるのか
- (2) 同事業を復活させ、高齢者を支援すべきではないか

8 公共交通について

- (1) 郊外からバスで通勤・通学ができ、高齢者も出歩く機会を多く持てる公共交通の確立が必要と考えるがどうか

1 65歳という節目の年齢について

- (1) 65歳に達した秋田市民を見て、市長はどう感じているのか
- (2) 65歳までの雇用機会の確保に係る認識と対応について
- (3) 市職員の人事評価や資格取得の状況などによって、定年延長する考えはないか、また、定年延長に伴う課題は何か
- (4) 臨時職員、嘱託職員及び作業員等に対して、継続勤務の希望や年齢上限等に関するアンケートなどを実施したことはあるのか、また、その結果をどのように生かしているのか

2 穂積市政3期目における施策の展開について

- (1) 本市における人口減少の現状と将来予測について
- (2) 合計特殊出生率1.48の実現に向けた取り組み状況はどうか、また、さらなる少子化対策をどのように展開していくのか
- (3) 県の人口減少対策の専門部署である「あきた未来創造部」とは、どのように連携しているのか
- (4) 人口減少対策の一環として取り組んできた本市の産業振興策の成功事例にはどのようなものがあるのか、また、将来性のある産業を今後どう伸ばしていくのか
- (5) 企業誘致の現状と今後の展望について
- (6) 景気回復の実感に乏しい中、本市経済が活気づくには、市民みずからが進んで働きたいという強い意欲を持つことが重要であると考えますが、市として市民の勤労意欲をどう喚起するのか
- (7) (仮称) 秋田市文化創造交流館について
 - ア 同交流館について、近隣の類似施設とはどのような違いがあるのか、また、役割分担をどう考えているのか
 - イ 同交流館を含め、中心市街地への多額の投資をどう認識しているのか
 - ウ 同交流館の利活用に向け、多くの市民や議会の声はどのように反

映されたのか

3 観光案内とおもてなしについて

- (1) 秋田市観光案内所の評価と課題について
- (2) 秋田市観光案内人及びあきた観光レディーの活動状況と評価について
- (3) 秋田港から運行されたクルーズ列車の運行形態と利用状況はどうか、また、クルーズ船の乗客の利用のみならず、子供たちの遠足コースや市民も利用できるようにするなど、幅広い使い道をJR東日本に提案してはどうか
- (4) クルーズ船の寄港に合わせた各種観光メニューの周知はどのように行っているのか、また、本市の見どころなどをどうPRしているのか
- (5) あきた舞妓に関するホームページへのアクセスがふえていると聞いているが、あきた舞妓に会える企画の立案と宣伝をもっと積極的に行うべきではないか
- (6) 観光に関連する企業への観光教育、市民を巻き込んだおもてなし教育、小学生から大学生までを対象とした秋田を知る勉強会など、市民挙げての観光意識を醸成するための取り組みを行っているのか
- (7) 「秋田の美味しいものを食べられる場所はどこか」、「駐車場はどこにあるのか」など、観光客のさまざまな疑問への対応はどこで、どのように行っているのか
- (8) レンタサイクルやあきた手ぶら便の利用など、おもてなしの現状と今後の取り組みについて

4 商店街のにぎわいづくりについて

- (1) 商店街のにぎわいが大幅に低下した現状をどう認識しているのか、また、既存の商店への支援をどう展開していくのか
- (2) 商店街はまちづくりの重要なファクターであると考えているが、本市が目指すまちづくりにどのように位置づけているのか
- (3) 地元の商店街づくりについて、大型店との協議等を含め、市として

どのようにかかわっているのか

(4) 起業家支援の現状と将来展望について

(5) 経営者の事業承継の現状と課題について

5 まちづくり等について

(1) 各地区のコミュニティーの形成とまちづくりについて

ア 各地区のコミュニティーは、その地区のコミュニティーセンターを中心につくることになるのか

イ 本市が進めてきた住宅の団地化をどう評価するのか、また、一、二代しか続かないと思われるこうした団地の未来をどう予想しているのか

ウ 本市が進める7つの拠点を中心としたまちづくり以外に、拠点ごとの特徴を生かしたサテライト的まちづくりをする考えはないか

(2) 秋田市立地適正化計画について

ア 本市が目指すコンパクトシティの考えに変化はないか

イ コンパクトシティの利点と欠点は何か

ウ コンパクトシティ構想は、本市の風土に適していると考えているのか

エ 同計画の策定に当たって意見を募集した結果、具体的に計画に反映されたものはあったのか

(3) 本市がイメージするまちの魅力とは何か、また、だれが魅力をつくり維持していくのか

(4) 今後の空き家や空き地の増加をどう予測しているのか、また、市民生活に及ぼす影響や課題にどう対応していくのか

(5) にぎわいは市の中心部でなければならないのか

6 農業政策について

(1) 農業経営の法人化によって、経理の明確化や対外信用力向上などのメリットがあるが、本市農業法人の現状と課題はどうか

(2) 農業法人の持続的な発展のためには、法人設立後の経営のあり方、

生産性の分析、原価計算及び作業性など、経営意識を維持・継続させる経営者のモチベーションが大切であるが、設立後のあり方や指導についてどう考えているのか

(3) 圃場整備により多品目栽培や規模拡大など経営効率の向上が期待できるが、本市における取り組み状況はどうか、また、本市において指導にどの程度かかわっているのか

(4) 「脱」米づくりにより、収益性の高い園芸作物への生産拡大シフトが要求されているが、農業従事者の人手不足が懸念される状況にどう対応していくのか

(5) 6次産業化の取り組みは前進しているのか、また、課題と今後の展望はどうか

(6) ブランドネーム「農家のパーティ」を旗印に実施している秋田市農業ブランド確立事業の進捗状況と課題について

(7) 県では普及指導員を配置し、巡回指導などを通じて農政課題の解決に向けた活動を行っているが、本市としての取り組み状況はどうか、また、農業普及に係る県と市の役割をどのように考えているのか

(8) G A P（農業生産工程管理）は、まだ消費者に浸透しているとは言えず、また、農家にとってもメリットがわかりにくく、認証取得に要する費用も負担になるなどの課題はあるが、農産物の安全を確保し、よりよい農業経営を実現するとされているG A Pについて、本市としてどのように取り組んでいくのか

(9) 秋田の田舎のおばあさんがつくる料理や漬物などの昔ながらの食は、長年培ってきた味であるとともに地域の宝でもあることから、これらのブランド化に取り組んでみる考えはないか

7 秋田市中心卸売市場及び秋田市公設地方卸売市場について

(1) 産地直販や流通の多様化による両市場の取扱高の減少をどう認識しているのか

(2) 人口減少が予想される中、今後の両市場の規模とあり方をどのように考えているのか

8 公用車の管理について

- (1) 公用車の保有台数の現状と今後の見通しについて
- (2) 車両管理及び乗務管理の仕組みはどうか
- (3) 各種管理に係る指導や講習はどのように行っているのか
- (4) 公用車を運転する職員の運転免許証の現状把握と職員の安全運転に対する意識啓発はどうか
- (5) 事故防止などの対応はどのようになっているのか

9 地域運動広場の整備について

- (1) 担当部長は、市内に9カ所ある地域運動広場を見たことがあるのか、また、見たことがある場合、その現状をどのように感じたのか
- (2) 地域運動広場の位置づけをどう認識しているのか
- (3) 秋田市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画における検討状況はどうか、また、将来的な方向性をどう考えているのか

10 合葬墓等について

- (1) 合葬墓の申し込みに当たり、6時間も待たされた方や、受け付けさえしてもらえない方がいた状況をどう認識しているのか、また、受け付けと申込方法の課題は何か
- (2) 本市のお墓に対する考え方と今後の市営墓地の整備見通しについて

11 上北手地区コミュニティセンターの建てかえについて

- (1) 地域住民の願いである上北手地区コミュニティセンターの建てかえについて、どのように認識しているのか
- (2) 建てかえの時期をどう考えているのか

12 イージス・アショアの配備について

- (1) イージス・アショアの配備に関する市長判断の一助とするため、最適候補地とされる新屋演習場を視察すべきではないか

1 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- (1) 同戦略の基本目標の達成状況、各施策の進捗状況、効果及び課題をどのように分析し、事業展開していくのか、また、同戦略の進捗状況及び効果を市民にわかりやすく公表すべきではないか
- (2) 今後2年間で同戦略の基本目標及び各施策の100%の実現を目指す、市長の決意はどうか

2 財政等について

(1) 主要2基金（財政調整基金及び減債基金）について

- ア 新・県都『あきた』改革プランにおいて、平成30年度末の主要2基金の残高目標を100億円と設定しており、年々目標額が下がってきているが、その理由は何か、また、その目標は達成できるのか
- イ 中・長期財政見通しにおいて見込んでいる平成40年度の主要2基金の残高は、将来の財政運営に支障はないと考えているのか
- ウ 人口規模が同等の都市における主要2基金の平成28年度末残高を比較すると、本市の残高は多いようであるが、どのような考えのもと基金を積み立てたのか
- エ 主要2基金の適正な残高のあり方をどのように考えているのか

(2) 地方自治体の基金残高を地方財政計画に反映させないよう国に要望すべきではないか

(3) 公共施設等整備基金について

- ア 同基金の積立目標額を平成30年度末までに50億円とした考え方はどうか、また、今後の同基金の方向性はどうか
- イ 同基金の取り崩しについては、条例設定の趣旨に沿って、充当すべき事業を精査した上で、計画的に行うべきではないか

(4) 今後の大規模事業や施設整備の進め方と秋田市公共施設等総合管理計画との整合をどのように図っていくのか

3 新スタジアム整備について

- (1) 新スタジアム整備構想策定協議会及び専門委員会における協議は、本市の市街地へのスタジアムの設置を前提にしていることから、各協議事項に対する本市の考えを明らかにした上で主体的に臨むべきではないか
- (2) 候補地の所在市として、提案されている候補地以外の候補地の可能性と、候補地の絞り込みの判断基準をどのように考えているのか

4 イービス・アショアの配備について

- (1) 南北首脳会談、日中韓首脳会談及び米朝首脳会談後のイービス・アショアの配備計画に対する市長の見解はどうか
- (2) イービス・アショアの配備については、住宅地への近さを懸念し、生活環境上、最適かどうか疑問視される中、市長は何を基準に判断をするのか、また、その判断は国の地盤測量調査等の前にするべきではないか

5 会計年度任用職員制度について

- (1) 地方自治法等の一部改正の施行後も、同制度の趣旨にかんがみ、フルタイム職員の任用を積極的に行うべきと思うがどうか
- (2) 同制度においては、給料・報酬の水準、期末手当の支給、休暇の取得について、正職員との均衡を図ることとされているが、具体的にどのようなに取り組むのか
- (3) 同制度の運用に向け、市職員労働組合との協議は行っているのか

6 災害対策等について

- (1) 昨年の豪雨における河川のはんらん及び浸水被害の対策を検証し、今年度、どのような対策を行っているのか、また、今後、新たな対策が必要な時期に来ているのではないか
- (2) このたびの記録的大雨による被害発生時に市長は不在であったが、今後、同様の事態が発生した場合の判断をどのように考えているのか

- (3) 災害発生時、災害ボランティアセンターを効率よく運営するためには、市からの情報を適切かつ迅速に提供するとともに、同センターの運営に対し、市が積極的に関与すべきと思うがどうか

7 教育行政について

- (1) 国で策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に基づいた、本市の中学校の運動部活動の取り組みと課題はどうか
- (2) 今後、教職員の多忙化防止計画をどのように進めていくのか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 市長就任後、これまで整備してきた施設の維持管理について、今後の財政計画上、影響はないのか、また、今後も大規模な施設整備を押し進めていく考えなのか
- (2) 市長が目指す本市ならではの教育とはどのようなものか、また、教育委員の定数をふやし、現役の子育て世代を加えるなど特徴のある教育委員会としてはどうか
- (3) これまでの政策を振り返りながら本市の将来像を見据えたとき、継続していくべき政策と、変えていくべき政策とは、どのようなものであると考えているのか

2 組織について

- (1) 7つの市民サービスセンターをつかさどり、地域振興に特化した新たな部を設置する考えはないか

3 子供を取り巻く環境について

- (1) 児童相談所の設置に向けて積極的に取り組むべきではないか
- (2) 小中一貫教育についてどのように認識しているのか、また、併設型による小中一貫教育の強化も可能であると思うがどうか

4 移住・定住について

- (1) 移住・定住の促進に対する市長の本気度は、現状どのように示されているのか、また、今後の姿勢についてはどうか

5 仁井田浄水場の更新について

- (1) 官民連携手法を導入する場合、具体的にどのような手法を考えているのか
- (2) 同浄水場の更新が、将来的に水道料金の値上げにつながる可能性は

ないのか

6 都市内地域分権とコンパクトシティについて

- (1) コンパクトシティと都市内地域分権の考え方には、どのような関連があるのか、また、市民サービスセンターの位置づけをどのように理解すればよいのか
- (2) コンパクトシティ推進の核となる地域を絞り込むべきと考えるがどうか